

December 2011

発行者：公益財団法人かなえ医薬振興財団

協賛：サノフィ・アベンティス株式会社

第40回 かなえ医薬振興財団 助成金受賞者が決定！

かなえ医薬振興財団は、生命科学分野の斬新な研究の推進を図り、若手研究者を育成するために1970年に設立され、これまでに全国1,331名の研究者に研究助成金および海外留学助成金を提供してまいりました。第40回となる2011年度は、10月6日の選考委員会及び11月1日の理事会を経て、受賞者60名が決定されました。今年は研究助成金が40名、海外留学助成金が15名、アジア・オセアニア交流研究助成金が5名、総額7,100万円の助成金を交付します。



10月6日開催の選考委員会の様子

今回は第40回を記念して、助成金贈呈記念式典を2012年2月29日に開催いたします。(受賞者一覧は3-4頁参照)

○分野別の応募状況

◇研究助成

分野	応募件数
臨床医学1	35
臨床医学2	41
臨床医学3	49
臨床医学4	85
基礎医学1	130
基礎医学2	120
合計	460

◇海外留学助成

分野	応募件数
臨床医学1	20
臨床医学2	12
臨床医学3	17
臨床医学4	39
基礎医学1	29
基礎医学2	36
合計	153



11月1日開催の理事会の様子

◇アジア・オセアニア交流研究助成

応募数 40

応募数合計：653件

●選考委員長よりひとこと

選考委員長 寺本 明 (日本医科大学大学院医学研究科 研究科長)



今年度は、応募領域を臨床医学の4分野、基礎領域の2分野と新たにアジア・オセアニア交流研究の合計7分野で公募しました。臨床医学分野は1) 神経/脳、2) 循環器、3) 消化器/代謝、4) 呼吸器/免疫・アレルギー/血液/その他、基礎医学分野が1) 癌/免疫/ゲノム/感染、2) 神経/薬理/薬物動態/その他、アジア・オセアニア交流研究は老年医学/再生医学/感染症/疫学/医療機器/漢方/その他です。

今回の応募数も多く、全国の大学、研究所、病院等100以上の施設からの応募があり、研究助成460報、海外留学助成153報、アジア・オセアニア交流研究助成40報で、厳正な審査の結果、研究助成40名、海外留学助成15名、アジア・オセアニア交流研究助成5名が決定いたしました。研究助成が11.5倍、海外留学助成10.2倍、交流研究助成8倍の厳しい競争の中で受賞された先生方に、心よりお喜びを申し上げます。この受賞を、先生方の今後の研究活動のより一層の励みとし、生命科学の進歩発展に貢献されることを期待しています。

●研究助成金受賞者 喜びの声



黒住 和彦 (岡山大学大学院 脳神経内科)

この度は第40回かなえ医薬振興財団助成金に御採択いただき、大変光栄に存じます。悪性脳腫瘍の一つである膠芽腫は平均生存期間が約1年と非常に予後の悪い腫瘍であり、新規治療法が模索されています。現在、様々な薬剤、治療戦略が研究されていますが、私の研究室では脳腫瘍に対する分子標的薬と腫瘍溶解ウイルスとの併用療法の研究を行ってきました。今回の受賞を励みにして今後も日々研究活動に取り組んでいきたいと思っております。

久米 真司 (滋賀医科大学 糖尿病腎臓神経内科)

この度、第40回かなえ医薬振興財団助成金の交付を賜り光栄に存じます。わが国では肥満人口の増加ならびに高齢化が急速に進んでおり、これらが腎臓病の悪化進展因子であることから、透析導入症例数も増加の一途を辿っています。現在、私はこの肥満や加齢に伴う腎臓病進展因子を明らかにしたいと考え研究を進めております。今後も新たな真実との出会いを楽しむとともに、今回の受賞を大きな励みとし、研究活動に精進する所存であります。



宇野 健司 (東北大学病院 糖尿病代謝科)

第40回かなえ医薬振興財団研究助成金に採択いただき、誠に光栄に存じます。急増する肥満の病態を考える上で、神経シグナルを介した臓器間相互作用の役割が注目されています。本研究では、肝臓でのアミノ酸代謝がどのような臓器間ネットワークを司り、メタボリックシンドロームの病態形成に寄与するのか、その解明に焦点を当て研究を進めております。今回の受賞を励みとし、臨床の現場にフィードバックできるような研究成果をご報告できるよう、より一層努力して参りたいと思っております。

菊繁 吉謙 (九州大学大学院 病態修復内科学)

この度は第40回かなえ医薬振興財団助成金にご採択頂き、誠に光栄に存じます。私は、これまで造血器悪性腫瘍における腫瘍性幹細胞や、造血幹細胞が白血病化の主要なターゲットとなりうる可能性につきまして、研究を行って参りました。化学療法、支持療法の進歩にも関わらず、いくつかの造血器疾患は未だに治療が困難な状況です。今回、ご評価頂いた研究計画を進め、白血病化のメカニズムに迫り、造血器悪性腫瘍の治療に役立てたいと思っております。



伊川 友活 (理化学研究所・免疫アレルギー科学総合研究センター 免疫発生研究チーム)

この度は第40回かなえ医薬振興財団助成金に採択していただき、誠に光栄に存じます。私はこれまで、造血幹細胞からT細胞への分化過程における分子機構の研究にいそしんできました。本研究では、T細胞分化過程における運命維持機構に焦点を当て、その分子機構を解明したいと考えております。将来的には、この成果を白血病発症機序の解明、免疫細胞を用いた細胞療法の開発などに結び付けられるよう頑張りたいと思っております。

村松 里衣子 (大阪大学大学院医学系研究科 分子神経科学)

この度は、第40回かなえ医薬振興財団助成金に採択していただき、誠に光栄に存じます。私は中枢神経の再生研究に取り組んでおります。中枢神経はわずかではありますが自然に再生しますが、そのメカニズムは明らかになっておりません。本研究では、中枢神経系の再生能力を増強する分子機構の解明し、再生効果を検証したいと思っております。今回の受賞を励みに、これからも神経再生研究の発展に貢献できるよう努力して参りたいと思っております。



●海外留学助成金受賞者 喜びの声



清水 逸平 (千葉大学医学部附属病院 循環器内科)

このたびは第40回公益財団法人かなえ医薬振興財団海外留学助成を賜り、心より感謝いたします。審査員の先生方をはじめ、関係されました方々に御礼申し上げます。私は現在、南野徹先生の指導のもと、細胞レベルでの老化シグナルが心不全や糖尿病といった老化関連疾患にあたえる影響に関する研究をしています。今回の受賞を糧として、留学後も最大限の努力を重ねてゆく所存ですので、引き続き御指導賜りますようお願いいたします。

山水 康平 (京都大学 再生医科学研究所 幹細胞分化制御研究領域)

この度は第40回かなえ医薬振興財団海外留学助成金を賜りまして、大変光栄に存じます。私はこれまでES細胞及びiPS細胞を用い、三胚葉分化及び血管内皮細胞分化の研究を進めて参りました。iPS細胞を含めた幹細胞を用いた細胞治療への期待が日に日に大きくなる昨今、留学先ではさらに“幹細胞分化とは何か”という課題に取り組み、幹細胞を臨床応用するための基礎の構築に貢献したいと考えております。今回の受賞を励みにして、より一層努力して参りたいと思っております。



●アジア・オセアニア交流研究助成金受賞者 喜びの声



田中 宏幸（九州大学大学院薬学研究院 薬用資源制御学分野）

第40回かなえ医薬振興財団アジア・オセアニア交流研究助成金に採択していただきましたこと大変光栄に存じます。採択課題では、タイ産薬用資源を活用する共同研究を企画いたしました。タイ国研究者との連携体制を基盤とするアジアの資源の有効活用を目指す新たなテーマを推進できるご支援を貴財団から賜り、大変感謝いたしております。さらに強固なタイ国研究者との協力体制を構築し、医薬シードの発見を目指してまいります。

●第40回（平成23年度）助成金受賞者 一覧

研究助成金

氏名	所属	研究課題
研究臨床1		
黒住 和彦	岡山大学大学院 脳神経外科	腫瘍微小環境をターゲットとした分子標的薬と新規腫瘍溶解ウイルス（OV）との併用による治療効果についての検討
内田 裕之	慶應義塾大学医学部 精神神経科学教室	統合失調症における寛解状態を維持する機序の解明：脳内ドパミン受容体の遮断の質および遺伝的見地から
渡部 雄一郎	新潟大学保健管理センター	高速シーケンサーを用いた全エクソン解析に基づく統合失調症リスク変異の探索
研究臨床2		
久米 真司	滋賀医科大学 内科学講座 糖尿病腎臓神経内科	肥満と加齢に関連した腎尿細管病変悪化に関わる新規慢性腎臓病関連分子の同定
村上 雅憲	山口大学大学院医学系研究科 器官病態外科学（第1外科）	末梢血単核球細胞移植による効果を増強した血管新生療法
鷹見 洋一	大阪大学医学部 老年・腎臓内科学	パーキンソン病関連分子 α シヌクレインの血管内皮機能及び長寿への影響に関する包括的研究
藤生 克仁	東京大学医学部附属病院 循環器内科	心臓繊維化を決定する新規腎臓由来物質の同定
研究臨床3		
宇野 健司	東北大学病院糖尿病代謝科	肝臓におけるアミノ酸代謝がメタボリックシンドロームの病態形成に及ぼす役割
藤本 啓	東京慈恵会医科大学医学部 糖尿病・代謝・内分泌内科	新規タンパク Nix 制御因子 PKC δ による膵 β 細胞容積調節に関する研究
岸本 浩行	岡山大学医学部消化器外科	テロメラゼ依存性増殖型アデノウイルス製剤を用いた早期大腸癌の低侵襲治療の開発
杉町 圭史	九州大学大学院 消化器・総合外科	肝再生治療応用を目指したオートファジー依存的肝再生機能の解析
研究臨床4		
菊繁 吉謙	九州大学大学院病態修復内科学	慢性リンパ球性白血病（CLL）原因遺伝子の解明
廣田 泰	東京大学医学部 女性診療科・産科	多面的アプローチによる早産の発症機序の解明
浅野 善英	東京大学大学院医学系研究科 皮膚科学	全身性強皮症に伴う血管障害に対してエンドセリン受容体拮抗薬が及ぼす作用についての検討
藤田 靖幸	北海道大学病院皮膚科	表皮水疱症に対する新規治療法の開発
山上 淳	慶應義塾大学医学部皮膚科	天疱瘡における病原性決定領域を標的とした治療戦略の開発
水野 健太郎	名古屋市立大学大学院医学研究科 腎・泌尿器科学分野	精子幹細胞機能からみた造精機能障害メカニズムの解明
萩原 聡	大分大学医学部麻酔科学講座	全身性炎症反応における新規 Damage associated molecular pattern molecules (DAMPs) の検討とその臨床応用
研究基礎1		
伊川 友活	理化学研究所 免疫・アレルギー総合科学研究センター 免疫発生研究チーム	ポリコム群遺伝子による T 細胞分化過程における運命維持機構の解明
齋藤 義正	慶應義塾大学薬学部薬物治療学講座	慢性炎症に伴うエピジェネティクスとマイクロ RNA の異常による消化器発がんの分子機構の解明と治療への応用
園下 将大	京都大学大学院医学研究科 遺伝薬理学教室	Notch シグナルによる大腸癌の悪性化進展促進メカニズムの解明
山口 英樹	国立がん研究センター研究所 転移浸潤シグナル研究分野	癌浸潤・転移における浸潤突起の機能解析
鈴木 一博	大阪大学免疫学フロンティア研究センター 免疫応答ダイナミクス	生体イメージング技術を用いた白血病細胞・骨髄ニッチ間相互作用の解析
新田 剛	国立国際医療研究センター・研究所 免疫病理研究部	T 細胞の分化を制御する新規遺伝子変異の解析
加藤 恭丈	東北大学大学院医学系研究科 生物化学分野	エピゲノム制御における S-アデノシルメチオニン合成とヒストンメチル化酵素の共役機構
指田 吾郎	千葉大学大学院医学研究院 細胞分子医学	エピジェネティック制御異常による造血不全症候群の分子病態
鈴木 敬一郎	京都大学医学研究科 創薬医学融合拠点 (AK プロジェクト)	小腸パイエル板の濾胞樹状細胞を介した免疫恒常性維持機構の解析
福原 崇介	大阪大学微生物病研究所 分子ウイルス分野	リポ蛋白産生機構を利用した C 型肝炎ウイルスの粒子産生に関する研究
高田 健介	徳島大学・疾患ゲノム研究センター 遺伝子実験施設	正の選択を介した T 細胞の中核性トランス機構
研究基礎2		
村松 里衣子	大阪大学大学院医学系研究科 分子神経科学	Prolyl hydroxylase を標的とした神経症状治療効果の検証
山口 賀章	京都大学大学院薬学研究科 システムバイオロジー分野	時差消失マウス（NJL マウス）による概日リズム異常の新規治療薬の開発
長船 健二	京都大学 iPS 細胞研究所 増殖分化機構研究部門	貧血に対する新規治療法開発を目指したヒト iPS 細胞からの腎エリスロポエチン産生細胞作製
中川 崇	富山大学 先端ライフサイエンス研究拠点	ミトコンドリア NAD 代謝の老化・老化関連疾患での役割

村越 秀治	自然科学研究機構生理学研究所 脳機能計測支援センター	光制御可能なシグナル伝達分子タンパク質の開発とシナプス可塑性研究への応用
山崎 正和	秋田大学大学院医学系研究科 グローバル COE	PCP 経路の分子機構に関する研究
小曾戸 陽一	川崎医科大学・解剖学	胎生期の3種の神経前駆細胞が脳サイズ決定に果たす役割
大河原 美静	名古屋大学大学院医学系研究科 神経遺伝情報学	先天性筋無力症候群における LRP4 の機能解析
佐藤 弘泰	東京都医学総合研究所 脂質代謝プロジェクト	雄性生殖過程における分泌性ホスホリパーゼ A2 分子群の包括的機能解析
三浦 恭子	慶應義塾大学医学部生理学教室	真社会性げっ歯類ハダカデバネズミをモデルとした哺乳類の「性差」獲得機構の解明
川上 浩司	京都大学大学院医学研究科 薬剤疫学	原発性不眠症患者において起床時刻が睡眠に与える影響に関する検討

海外留学助成金

氏名	申請時所属／留学先	研究課題
留学臨床1		
諸藤 陽一	独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター 脳神経外科／ Department of Internal Medicine, Univ. of Washington School of Medicine	脳虚血時における血液脳関門の破綻及び修復機序の解明
山田 清文	Department of Radiology, University of Washington	MRI, PET を用いた頸動脈プラーク性状診断とその臨床応用
留学臨床2		
清水 逸平	千葉大学医学部附属病院 循環器内科／ボストン大学医学部 ワイタッカー心臓血管研究所	老化シグナルにより制御される心不全の分子機序の解明
留学臨床3		
三吉 範克	MGH Cancer Center	再生医療を目指したマイクロ RNA による多能性幹細胞誘導と分化誘導療法の開発研究
三宅 亨	滋賀医科大学医学部外科学講座／Harvard Medical School	癌微小環境における血管新生と炎症の相互作用の解明
留学臨床4		
中島 崇裕	Division of Thoracic Surgery, University of Toronto	肺癌に対する分子標的治療を目的とした超音波気管支鏡ガイド下針生検 (EBUS-TBNA) 検体を用いた遺伝子変異・発現解析
佐藤 信吾	The Hospital for Sick Children, Developmental and Stem Cell Biology	骨軟部肉腫の起源細胞および肉腫幹細胞マーカーの同定
大竹 耕平	三重大学医学部 消化管・小児外科／UCL (ロンドン大学) Institute of Child Health	難治性小児悪性腫瘍である神経芽腫に対するプロテオミクスを用いた診断、治療マーカーの探索
柳沢 龍	信州大学医学部附属病院輸血部／Center for Cell and Gene Therapy, Baylor College of Medicine	腫瘍特異的キメラ抗原受容体発現細胞傷害性 T 細胞を用いた新規臓器がん治療法の開発
留学基礎1		
笹井 美和	イェール大学 医学部 免疫生物学分野	TLR を介した I 型 IFN 産生の分子メカニズムの解明
小黒 秀行	University of Texas Southwestern, Children's Research Institute	造血幹細胞の自己複製誘導因子の探索
森川 真大	東京大学医学系研究科 分子病理学分野／Ludwig Institute for Cancer Research, Uppsala Univ.	未分化性維持における骨形成因子 (BMP) シグナルの役割の検討
留学基礎2		
丹羽 伸介	東京大学大学院医学系研究科 細胞生物学／Stanford Univ., Howard Hughes Medical Institute	分子遺伝学を用いたシナプス小胞集積機構の解明
上野 将紀	大阪大学大学院医学系研究科 分子神経科学／Cincinnati Children's Hospital Medical Center	脳障害後に代償性神経回路の形成を促す分子メカニズムの解明
山水 康平	京都大学 再生医科学研究所 幹細胞分化制御研究領域／ National Institute on Aging, NIH	転写因子発現システムを有する ES 細胞バンクを用いた細胞分化機構の網羅的解析

アジア・オセアニア交流研究助成金

氏名	所属	研究課題
田中 宏幸	九州大学大学院薬学研究院 薬用資源制御学分野	タイ産薬用植物と内生菌を利用した新規有用天然物の創製研究
神田 達郎	千葉大学大学院医学研究院 腫瘍内科学	B 型肝炎ウイルス感染症におけるバイオマーカーとしての Micro-RNA の同定
濱田 尚宏	久留米大学医学部皮膚科	アトピー性皮膚炎におけるフィラグリン遺伝子変異の人間多様性と自然免疫異常への関与
前田 和哉	東京大学大学院薬学系研究科 分子薬物動態学教室	漢方薬の毒性発現メカニズムを支配するトランスポーターの役割に関する検討
岡田 和久	大阪大学微生物病研究所 日本-タイ感染症共同研究センター	ミャンマーにおけるコレラ菌分離株の分子疫学的解析

発行

公益財団法人かなえ医薬振興財団 事務局

〒163-1488

東京都新宿区西新宿 3-20-2 サノフィ・アベンティス (株) 内

Tel : 03-6301-3090 FAX : 03-6301-3094

E-mail : kanae.zaidan@sanofi.com

URL : <http://www.kanae-zaidan.com/>

☆ご協力お願いします

このニュースレターは、歴代受賞者及び応募関連領域の先生方宛を中心に約 2500 部発行しております。

送付先のご所属等に変更がございましたら、登録情報を更新いたします。お手数ですが e-mail 等でご連絡下さいますよう宜しくお願い申し上げます。